

終わりに

「かんぽの宿」は国が運営する簡易保険加入者向けの福祉事業としてスタートし、全国各地に設けられ、さまざまな形で国民の財産として利用されてきた。中には、もう二度とこのような立地には建物を建てること難しいと思われる施設もあった。

度重なる行政改革や郵政民営化などの政治の流れもあり、最終的には民間ホテル事業者等への事業の引き継ぎという形で「かんぽの宿」等は終了したが、単に余暇を過ごす場所というだけでなく、長期にわたって地域の拠点として担ってきた役割と郵政事業への貢献は小さくなく、その移行にあたっては利用者から「かんぽの宿」として存続を望む声が多く寄せられた。

段階的に廃止・売却を進めてきた施設の中には、その後も地域の拠点として活用されている施設も多く存在している。今後ともそれぞれの施設が立地や公共的な観点が活かされ、今後もそれぞれの地域の核となる施設として長く活用されることを願っている。